

ボッチャ 協力してプレー

美浜 上野間小児童24人体験



ボッチャをプレーする児童たち＝美浜町の上野間小で

美浜町上野間小学校の四年生二十四人が十八日、パリンピック競技のボッチャを体験し、その奥深さを

学んだ。町内にキャンパスがある日本福祉大スポーツ科学部と町教委が連携し、町内の小中学校でパラ競技

の体験授業を開いている。この日は、同学部の安藤佳代子准教授と、そのゼミに参加する学生六人が講師となり、ボッチャのルールや競技のやり方を教えた。

ボッチャは青と赤のボールを投げ合い、的のボールからの距離を競う。児童たちは当初、ボールを投げる力加減に苦戦していたが、慣れてくると、的のボールをずらすといった作戦もできるようになった。参加した

は「ボールを的に近づけるのが難しかったが、みんなと協力してプレーできて良かった」と授業を振り返った。安藤准教授は取材に、「道具やルールの工夫で、障害がある人もない人も楽しめるスポーツがあることを知ってほしい」と話した。

(石井豪)